

作成日：2022年11月26日

研究協力のお願い

昭和大学病院、昭和大学横浜市北部病院、昭和大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

尺骨鉤状突起骨折に対する前方進入による内固定術の治療成績

1. 研究の対象および研究対象期間

昭和大学病院、昭和大学横浜市北部病院、昭和大学江東豊洲病院で2015年1月から2023年12月までに尺骨鉤状突起骨折に対し加療歴のある患者さん

2. 研究目的・方法

尺骨鉤状突起骨折（尺骨前方の突起部分の骨折）に対し前方進入にて内固定術を施行した症例を対象に臨床像、手術成績、合併症などを診療録、レントゲン画像、手術記録を用いて調査します。

尺骨鉤状突起骨折に対しての手術加療は前方進入、外側進入、内側進入などの選択肢がありますが前方進入法による術後の関節可動域、使用した内固定材、合併症の有無や発生率の評価などを行います。

研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究機関の長の研究実施許可を得てから2023年12月31日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録（病歴、使用した内固定材、術後関節可動域、合併症の記載の有無など）、肘関節レントゲン検査、手術記録

4. 外部への試料・情報の提供

個人情報保護のため、取得した診療情報は各病院を担当する研究分担者が個人の氏名、生年月日、電話番号、また診療情報等、個人を識別できる情報を削除し符号化し、対応表を作成します。得られた診療情報、対応表は各施設内の外部から切り離されたコンピューター内に保存されます。また、符号化した情報は各施設（提供元）より研究責任者（提供先）に送付されます。

提供元は、得られた全ての情報を本研究終了時に研究の中止または終了後少なくとも5年間、あるいは研究結果発表後3年が経過した日までの間のどちらか遅い期日まで保存・管理します。提供先は、得られた全ての情報を研究責任者 東山 祐介の責任において研究終了後5年間保存・管理します。得られた成果は、個人情報保護に配慮したうえで学会や論文に発表されます。

5. 研究組織

昭和大学 医学部 整形外科学講座

研究責任者 東山 祐介（昭和大学江東豊洲病院）

研究分担者 久保 和俊（昭和大学病院）

研究分担者 川崎 恵吉（昭和大学横浜市北部病院）

（住所：〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8、連絡先：03-3784-8543）

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学江東豊洲病院 氏名：東山 祐介

住所：〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38 昭和大学江東豊洲病院

電話番号：03-6204-6000

研究責任者：東山 祐介（昭和大学 医学部 整形外科学講座）